

県立姫路循環器病センターと製鉄記念広畑病院の統合再編整備に係る新病院及び関連施設の 建築設計業務委託者選定に係る企画提案競技の審査結果について

県立姫路循環器病センターと製鉄記念広畑病院の統合再編整備に係る
新病院及び関連施設の建築設計業務委託者選定委員会

委員長 安田 丑作

県立姫路循環器病センターと製鉄記念広畑病院の統合再編にかかる新病院及び関連施設の建築設計業務委託者選定委員会(以下「選定委員会」という。)は、統合再編される新病院及び関連施設の建築設計者の選定に当たって、その選定方法と提案内容について慎重に審議を行った結果、次の者が提出した提案書を最優秀として特定した。

特定した提案書を提出した者 株式会社 梓設計 関西支社

審査経過及び総評、選評

1 委員会の構成 (敬称略)

委員長	安田 丑作	神戸大学名誉教授
副委員長	河合 慎介	京都府立大学准教授
委員	小菅 瑠香	帝塚山大学准教授
委員	中野 則子	(公社)兵庫県看護協会会長
委員	藤澤 正人	神戸大学医学部附属病院病院長
委員	木下 芳一	島根大学医学部附属病院副院長
委員	古川 直行	兵庫県病院事業副管理者

2 審査日程及び内容

県立姫路循環器病センターと製鉄記念広畑病院の統合再編整備に係る新病院及び関連施設の建築設計業務委託者選定に係る企画提案競技の実施に当たり、計3回の選定委員会を開催し審議を行った。

(1) 第1回選定委員会 平成29年3月29日(木)

選定委員会設置要領に基づき、委員の互選により委員長を選出した。

本企画提案競技の実施概要について事務局から説明を受け、提案書の特定に当たっては2段階で選考することを確認し、参加資格要件及び提出を求める参加表明書に関する「募集要項」並びに「参加表明書評価要領」について審議を行った。その後、事務局を通じて募集が開始された。

(2) 第2回選定委員会 平成29年6月1日(木)

① 一次選考

募集期日までに参加表明書が提出された9者の中から、二次選考の対象となる技術提案書の提出を求める者（以下「被要請者」という。）として5者を選定するための審査（一次選考）を行った。

まず、参加表明書の提出された9者の技術関係書類からは、いずれの応募者も参加資格要件を満たしており、当該業務を遂行することが可能な技術的適性を有していることが事務局から報告され、了承した。

提出された参加表明書のうち、「事務所の体制」、「業務の実施体制」については、予め定められた評価基準に基づいて事務局により評価がなされた。

参加表明書の「業務の実施方針」の審査については、各委員が提案書の内容の事前評価を行い、選定委員会では、この事前評価の結果を踏まえて、それぞれの提案書に関する意見交換の後、各委員による最終評価（本審査）を行った。

この「業務の実施方針」に関する本審査結果に、「事務所の体制」と「業務の実施体制」の評価結果を加えて審議した結果、総合評価点の高かった上位5者を二次選考の対象となる被要請者に選定した。

② 「技術提案書提出要請書」及び「技術提案書評価要領」の審議

二次選考に当たり提出を求める技術提案書等の内容を定める「技術提案書提出要請書」及び提案書の評価方法を定める「技術提案書評価要領」について審議、決定した。

このうち、技術提案を求める課題として、次の3つの課題を設定した。

ア 統合再編による新たな医療関係施設にふさわしいデザインについて

～統合再編により、姫路市を中心とした中播磨・西播磨圏域の地域医療へさらなる貢献を果たすために～

イ 総合的な長寿命化及びライフサイクルコスト等の適正化方策について

ウ その他自由な提案

(3) 第3回選定委員会 平成29年8月17日(木)

① 二次選考

二次選考では、5者の被要請者から提出された技術提案書について、先に決定した「技術提案書評価要領」に従って、「(A) 委託料」、「(B) 業務の実施方針・手法・提案」、「(C) 取組意欲」の3つの評価項目により審査した。

このうち、「(A) 委託料」の評価については、予め定められた評価基準に基づいて事務局により評価がなされ、その結果を最終審査時に反映させることを選定委員会として了承した。

3つの課題に対する「(B) 業務の実施方針・手法・提案」については、「業務内容の理解度」と「具体的提案の実現性・的確性・独創性」の2つの評価項目により審査した。技術提案書の具体的な提案内容に関して、被要請者毎にプレゼンテーション及び質疑応答によるヒアリングを行い、各提案に関する理解をより一層深めた。なお、各委員は、技術提案書の事前評価を行った上でヒアリングに臨んだ。

選考委員会での審査にあたっては、事前評価とヒアリング内容を踏まえて、それぞれの提案内容を比較しつつ議論を重ねた後、各委員による「(C) 取組意欲」の評価を含めた最終評価（本審査）を行った。

3つの評価項目についての本審査結果について改めて議論し、「(A) 委託料」の評価を加えた総合評価点の最も高かった「株式会社 梓設計 関西支社」による技術提案書を、全委員一致で最優秀提案として特定した。

なお、次点は、「株式会社 日建設計 大阪オフィス」による技術提案書とした。

3 総評

本プロジェクトは、中播磨・西播磨圏域における医療の現状、両病院の診療機能、設備の現況等の現状と課題を踏まえ、今後の医療制度改革の動向に対応し、安定的・継続的に良質な医療を提供するため、両病院を統合再編し、新病院を整備するものである。

本企画提案競技には、9者から参加表明書が提出されたが、いずれも本企画提案競技の趣旨がよく理解され、真摯で意欲的な取組み姿勢が感じられるものであった。本企画提案競技に向けた参加者各位の情熱と惜しまない努力に対し、心から敬意を表したい。

選定委員会での審査に当たっては、次に掲げる3つの視点に特に留意した。

- ① 中播磨・西播磨圏域の地域医療へのさらなる貢献を果たすべく、統合再編による効果を最大限に発揮するための方策を建築計画に取り入れているか。加えて、同一敷地内に整備される獨協学園や県立大学(以下「関連施設」という。)との連携・協働により発揮される研究機能と教育機能を意識し、新病院及び関連施設における設計の考え方や発想にどのように繋げているか。
- ② 建築はその立地する「場所」との関係性が極めて重要となる。そのため建設予定地の「場所性」や周辺環境等を含めた「地域性」がどのように意識され、提案の中でどう具体化し、反映されているか。特に、隣接する姫路市の文化コンベンション施設との整合・調和について配慮されているか。
- ③ 多額の投資により建設される統合新病院及び関連施設は、周辺環境だけでなく地球環境に対する配慮、機能の拡張性や更新性等を含めた長期間の使用に耐える長寿命性が求められる施設である。併せて、公共施設の整備に当たっては、限られた予算と時間のなかで質の高い施設を実現させることが社会的にも強く求められるが、このような要請に応えることができる高度な技術的判断がなされているか。

本企画提案競技では、上記3つの視点に基づきながら、今後の地域医療体制の確保、新たな地域包括ケアシステムの構築に向けた先導的モデルともなる本プロジェクトの構想理念についての理解度と、その実現に向けた建築計画・設計に係る具体的提案の実現性、的確性、独創性が審査の最も重要なポイントとなった。

二次選考に進んだ5者からは、豊富な実績と高度な技術力に裏打ちされた創造的で魅力的な内容の技術提案書が提出され、十分な業務執行能力を有すると判断された。ただ、上記視点のうち、②の建設予定地の「場所性」や周辺環境を含めた「地域性」の提案に関しては、独創性や具体性にやや欠ける点があったように思われた。

4 選評

最優秀提案と特定された「株式会社 梓設計 関西支社」の提案は、特に次のような点が高く評価された。

- 土地利用と施設配置の計画構成が的確で、施設間の連携や周辺環境への配慮など、新たな地域医療拠点に相応しい「メディカル・タウン」の形成が期待できる。
- 歩行者の主要アクセスとなる「タウンデッキ」、入院診療棟と外来棟とを分離・結合する「メディカルモール」は、利用者にとって分かりやすく、明るく開放的な空間利用が魅力的である。
- 1フロア2看護単位のシンプルな形態の病棟は、独立性が高く利用者にわかりやすい構成となっており、部門間の連携強化や緊急動線の最短化、多様な看護体制への柔軟な対応等についても適切に配慮されている。
- 将来の拡張性を考慮した平面計画をはじめ、可変性を確保する構造形式等による施設の長寿命化と設計初期段階からのライフサイクルコストの低減への体制づくりが適切に示されている。

提案内容全体として、実現性、的確性、独創性のバランスがよく取れており、プレゼンテーションも提案意図を十分に伝えていて、卓越した設計提案力とコミュニケーション能力を感じさせた。本設計業務に取り組むに当たって、提案者の資質、能力ともに優れており、県との共同設計のパートナーに相応しいと評価された。

次点となった「株式会社 日建設計 大阪オフィス」の提案は、病棟と診療棟の分離・結合の考え方に説得力があり、機能構成の柔軟性がある病棟や職員の快適性に配慮された管理エリアの計画等が評価された。しかし、新病院と関連施設・立体駐車場との間に配置されたロータリーによる各施設の分断感や病棟のコミュニティスペースの不足等について懸念が示され、総合的な評価として特定するには至らなかった。

なお、二次選考における他の提案者3者についての評価では、委員から以下のような問題点の指摘があった。

- 提案者① 診療ゾーンにおける「ホスピタルモール」と平面構成との関係性、精神科病棟と救急病棟が隣接する平面構成、南北を建物に挟まれた「ホスピタルガーデン」の有効性など。
- 提案者② 病院のメインエントランスの位置と道路との関係性、手術部門と重症病棟が別フロアとなる平面構成、将来の増築への対応、やや単調な印象の外観デザインと地域景観との調和など。
- 提案者③ 過大な建築面積と北側の周辺環境への影響、十字型病棟における動線の交錯と将来的な可変性への対応など。

最後に、今後の実施設計に当たっては、最優秀提案者と県とがよきパートナーシップを築き、提案内容の具体化を図るとともに、新たな課題にも柔軟に対応して、中播磨・西播磨圏域における県民にとって、真に安全・安心の地域医療の拠点が整備されることを期待したい。

その際、病院をはじめとする各関連施設運営関係者はもちろん、姫路市が整備する文化コンベ

ンション施設とも十分連携・協議して、一体的な地域環境の形成が図られるよう、特に要望しておく。